

Title	実践的能力の育成に関する調査結果報告書(中期計画番号6関係資料)
Author(s)	教育改革室
Citation	
Issue Date	2009-06
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/978
Rights	

実践的能力の育成に関する調査結果 報告書

(中期計画番号 6 関係資料)

教育改革室

平成 21 年 6 月

Q5 卒業論文等の作成に際し、「関連情報の収集」についてどのような指導をしましたか。

キーワード (1) (2) (3)

Q6 卒業論文等の成果の発表に際し、「プレゼンテーション能力」の向上のためにどのような指導をしましたか。

キーワード (1) (2) (3)

Q7 卒業論文等の作成に関わり、「課題の設定能力」、「知識の総合能力」、「関連情報の収集」、「プレゼンテーション能力」以外に向上を目指した資質・能力は何ですか。

キーワード (1) (2) (3)

Q8 卒業論文等の作成の指導の結果、学生のどのような資質・能力が向上したと思いますか。以下の選択肢から選んで下さい。(複数選択可)

- (1) 課題の設定能力
- (2) 知識の総合能力
- (3) 関連情報の収集能力
- (4) プレゼンテーション能力
- (5) その他(具体的に)
- (6) 向上した資質・能力はない

Q9 平成19年度の卒業論文等の作成指導に関わり、それ以前と比較し工夫した事は何ですか。また、その効果はどうでしたか。

キーワード (1) (2) (3)

2. 各質問項目の分析

Q1 卒業論文等の作成の指導をした学生数は何名ですか。

卒業論文等の作成の指導をした学生数は、平均4.02人であった。最大は26人で、10人以上を担当した教員数は4名であった。再編に伴う教員の異動のため、多数の学生の指導にあたったケースと思われる。これらの例外を除くと平均は3.56人となり、ほぼ学生数/教員数に近い数となった。

Q2 卒業論文等の課題の設定はどのように行いましたか。以下の選択肢から一つを選んで

下さい。

選択項目	回答/%
(1) 学生が自ら設定した。	14.1
(2) 学生と話し合い、学生の希望を優先して設定した。	75.0
(3) 学生と話し合い、教員の都合を優先して設定した。	1.1
(4) 教員が設定した。	2.2
(5) その他	7.6

選択項目(2)「学生と話し合い、学生の希望を優先して設定した。」が75.0%と圧倒的に多く、学生の希望が優先していることが分かる。次に多いのが(1)「学生が自ら設定した。」で、卒業研究のテーマ設定に関しては、学生の希望が強く反映していた。

Q3 卒業論文等の課題選択の際に、「課題の設定能力」の向上のためにどのような指導をしましたか。(括弧内は全キーワード数に対する割合、以下同じ)

多く見られた語は「調査」で、これに関連して「論文」があった。別の系統では「学生」と「問題意識」の関係が深く、キーワードでも(1)先行研究、文献調査、資料検索などの先行研究の調査に関するもの(26.2%)、(2)問題意識、思考、目的の明確化など課題の思考に関するもの(20.2%)、(3)個別指導、調査指導など実際の調査の手法に関するもの(23.8%)であった。学生の研究に関する興味関心を、調査によって得られた資料などで明確化し、「課題の設定」をしようとする傾向があると取れる。課題設定の方法を学生の興味関心を題材に実践し、設定能力を向上させようとしていると言える。

Q4 卒業論文等の作成に際し、「知識の総合能力」の向上のためにどのような指導をしましたか。

「知識の総合能力」に関する自由記述中の語として、「先行研究」と「指導」、「関連」と「論文」があり、一方では、「学生」と「結果」、「力」(仮説、検証、説明、解釈などに関連)の関連が見られた。キーワードとして、(1)文献要約、輪読、情報収集の技術的指導など(49.2%)、作業に関するものが多く、(2)課題意識、考察、思考過程など論理的思考に関するもの(20.3%)、(3)多面的視点、複数資料、複眼的視野など、客観的なものの見方の関するもの(15.3%)、が見られた。資料やデータを客観的、論理的に整理する作業を通じて、「知識の総合能力」を向上しようとする姿勢の現れと思われる。

Q5 卒業論文等の作成に際し、「関連情報の収集」についてどのような指導をしましたか。

この質問項目についてのキーワードとして、(1)図書館、キーワード、文献検索など情報収集の技術的なもの(39.7%)、(2)資料やデータの妥当性、信頼性などの資料やデータ読み方に関連するもの(17.9%)、(3)インターネット、データベースなどコンピュ

一タ使用に関するもの(17.9%)、が多く見られた。自由記述欄に現れる語句も、ほぼ同様であった。情報機器を活用して関連情報を収集し、その信頼性に配慮するよう指導していると言える。

Q6 卒業論文等の成果の発表に際し、「プレゼンテーション能力」の向上のためにどのような指導をしましたか。

この質問項目に関しては、キーワードでは、(1)学会発表、卒論発表、展示、講演会など、研究成果発信の機会を利用しているもの(33.9%)、(2)パワーポイントなどプレゼンの機器やソフトの利用法に関するもの(21.4%)、(3)討論、質疑など成果の検証に関するもの(21.4%)、(4)文章表現、レジュメ作成など表現に関するもの(19.6%)、が多く見られた。自由記述欄に現れる語句も、ほぼ同様であった。学会や講演会などに参加し、他者の発表の様子を参考とし、卒論発表などで実践を通じて向上を目指している、ということが言える。論理的な考察能力、文章表現力の向上は、討論やレジュメ作成を通じて行っているようである。

Q7 卒業論文等の作成に関わり、「課題の設定能力」、「知識の総合能力」、「関連情報の収集」、「プレゼンテーション能力」以外に向上を目指した資質・能力は何ですか。

自由記述欄に多く現れた語として、「書き方」、「論文」が目についた。キーワードとして、(1)自発性、自己管理、計画性などの自主性に関するもの(31.4%)、(2)論理的思考、省察、実証性などの論理性に関するもの(25.4%)、(3)調査能力、制作、研究授業などの技術的なもの(19.6%)、が見られた。(1)については人間的に成長した、という見方もあった。

Q8 卒業論文等の作成の指導の結果、学生のどのような資質・能力が向上したと思いますか。以下の選択肢から選んで下さい。(複数選択可)

選択項目	回答/%
(1) 課題の設定能力	59.8
(2) 知識の総合能力	65.2
(3) 関連情報の収集能力	69.6
(4) プレゼンテーション能力	62.0
(5) その他	3.3
(6) 向上した資質・能力はない	19.6

この項目の(1)から(4)までについては、6-7割の教員が向上したと評価していて、特に「(3)関連情報の収集能力」の割合が高くなっている。卒業論文等の作成の指導は、設定した(1)-(4)の能力の育成に効果があるという印象を教員は持っている。

Q9 平成19年度の卒業論文等の作成指導に関わり、それ以前と比較し工夫した事は何です

か。また、その効果はどうでしたか。

この質問項目については回答数が少なく、また特にないとの回答もあることから、分析はしないこととした。

多くの教員はテーマ設定については、学生と話し合い学生の希望を優先して設定する場合が多く、学生の興味関心と、教員の指導可能な内容との接点を見つけようとしているようである。「課題の設定能力」と「関連情報の収集」については、先行研究の調査や情報収集の技術的指導を行い、問題意識を持たせ、目的の明確化を行っている。論理的思考や客観的なものの見方の個別指導を通じて「知識の総合能力」の育成し、レジュメ作成、卒論発表の作業を通じ「プレゼンテーション能力」を育成していると言える。また、多くの教員がデータベースを使用し、インターネット経由での情報については十分な注意を払っているようである。

3. 卒業時アンケート質問項目

Q2. 卒業論文等の課題選択の際に、「課題の設定能力」の向上のために下のような指導を受けましたか。（複数回答可）

- (1) 先行研究の調査に関する指導
- (2) 問題意識、思考、目的の明確化など課題の思考に関する指導
- (3) 個別指導、調査指導など実際の調査の手法に関する指導
- (4) その他（具体的に)

Q3. 卒業論文等の作成に際し、「知識の総合能力」の向上のために下のような指導を受けましたか。（複数回答可）

- (1) 文献要約、輪読、情報収集の技術的指導
- (2) 課題意識、考察、思考過程など論理的思考に関する指導
- (3) 多面的視点、複数資料、複眼的視野など、客観的なものの見方に関する指導
- (4) その他（具体的に)

Q4. 卒業論文等の作成に際し、「関連情報の収集」について下のような指導を受けましたか。（複数回答可）

- (1) 図書館、文献検索など情報収集の技術的な指導
- (2) 資料やデータの妥当性、信頼性などの資料やデータ読み方に関連する指導
- (3) インターネット、データベースなどコンピュータ使用に関する指導
- (4) その他（具体的に)

Q5. 卒業論文等の成果の発表に際し、「プレゼンテーション能力」の向上のために下のような指導を受けましたか。（複数回答可）

- (1) 学会発表、卒論発表、展示、講演会など、研究成果発信の機会への参加
- (2) パワーポイントなどプレゼンの機器やソフトの利用法に関する指導
- (3) 討論、質疑など成果の検証に関する指導
- (4) 文章表現、レジュメ作成など表現に関する指導
- (5) その他（具体的に)

Q6. 卒業論文等の作成に関わり、「課題の設定能力」、「知識の総合能力」、「関連情報の収集」、「プレゼンテーション能力」以外に、教員の指導により向上した資質・能力は何ですか。

4. 各質問項目の結果

質問に回答した人数は質問によってことなるが、最大 728 名（札幌校 109 名、函館校 243 名、旭川校 244 名、釧路校 83 名、岩見沢校 49 名）、最小 661 名（札幌校 92 名、函館校 226 名、旭川校 216 名、釧路校 80 名、岩見沢校 47 名）であった。

Q2.項目	割合/%
(1) 先行研究の調査に関する指導	45.5
(2) 問題意識、思考、目的の明確化など課題の思考に関する指導	54.1
(3) 個別指導、調査指導など実際の調査の手法に関する指導	39.3
(4) その他	7.3
合計	146.2

教員の回答で多かった (1) (26.2%) が相対的に少なく、教員では回答率 20.2% の (2) が 54.1% と最も多くなっているという差がみられた。また、教員回答率 23.8% の (3) の割合も高かった。学生の回答は一人当たり 1.46 項目であった。

Q3. 項目	割合/%
(1) 文献要約、輪読、情報収集の技術的指導	51.9
(2) 課題意識、考察、思考過程など論理的思考に関する指導	53.9
(3) 多面的視点、複数資料、複眼的視野など、客観的なものの見方に関する指導	40.5
(4) その他	3.4
合計	149.8

教員の回答では最も多い (1) が、学生の回答でも多くなっていて、指導の意図と指導内容が一致していることが伺える。しかし、教員回答率の比較的低い (2) (20.3%) と (3) (15.3%) でも、学生の回答率は高く、教員の指導が総合的であることが原因として考えられる。学生の回答は一人当たり 1.50 項目であった。

Q4. 項目	割合/%
(1) 図書館、文献検索など情報収集の技術的な指導	59.5

(2) 資料やデータの妥当性、信頼性などの資料やデータ読み方に関連する指導	46.9
(3) インターネット、データベースなどコンピュータ使用に関する指導	30.8
(4) その他	5.8
合計	143.0

教員の回答率では、(1)が39.7%、(2)が17.9%、(3)が17.9%であり、学生の回答率でも類似の傾向が見られた。卒論指導においては、図書館や図書館のデータベースが重要な役割を果たしていることが伺える。学生の回答は一人当たり1.43項目であった。

Q5. 項目	割合/%
(1) 学会発表、卒論発表、展示、講演会など、研究成果発信の機会への参加	37.7
(2) パワーポイントなどプレゼンの機器やソフトの利用法に関する指導	28.7
(3) 討論、質疑など成果の検証に関する指導	26.0
(4) 文章表現、レジュメ作成など表現に関する指導	45.5
(5) その他	4.5
合計	142.5

教員の回答率は(1)が33.9%、(2)が21.4%、(3)が21.4%、(4)が19.6%で、学生の回答で(4)が最も多くなっているのと対照的である。教員が重点的に指導したつもりでなくても、学生側は指導として強く印象に残っているものと思われる。学生の回答は一人当たり1.43項目であった。

Q6. 卒業論文等の作成に関わり、「課題の設定能力」、「知識の総合能力」、「関連情報の収集」、「プレゼンテーション能力」以外に、教員の指導により向上した資質・能力は何ですか。

この項目についてはほとんどの回答が問いに含まれるため、分析しないこととした。

5. 総括と改善案

今回、卒業研究に関し教員の指導内容について調査し、そこで抽出した指導内容について、卒業生に対し実際に指導を受けたかを調査した。その結果、(1)教員の指導は、概ね学生が受けたと感じている指導と一致していたが、(2)一部に教員は指導したつもりがないのに、学生は指導を受けたと感じていることがある、という事が明らかになった。この点から総括すれば、本学の卒論指導は、「課題の設定能力」、「知識の総合能力」、「関連情報の収集」、および「プレゼンテーション能力」を要素とする「実践的能力」の育成に関しては概ね目標を達成していると言える。

しかしながら、調査に参加した学生数が50%を越えるのに対し、教員数が92名(約1/4)と少なく、実態を反映しているかという点で調査には問題があることも事実である。

また、自由記述欄で「指導を受けていない」とした学生もいたことは問題であり、教員はこれを改善して真摯な指導を行う必要がある。